

LEAN WAREHOUSING リーン・ウェアハウジング

ムダのない倉庫・配送センターをめざして

ケン・アッカーマン：著 樋口憲一：訳

定価(本体1500円+税)

■「Part 5：ムダ取りの道具（リーンツール）」から一部ご紹介

倉庫において保管と荷役は2大コスト要因だ。パレットラックと棚は、保管の生産性を上げるために購入される。一般的に、モバイル端末機器は荷役を改善するために購入される。狭い通路で使えるフォークリフトを導入すれば、保管と荷役の両方を強化することができる。新しい機材を検討するとき、ムダなスペースを削減するためなのか、ムダな時間を削減するためなのか、それともその両方のためなのかをはっきりさせておくことが大切だ。

どの購買担当者も価格を重視する。最安値の機材を探すと、バイヤーにとっては、知らないブランドに行き着いてしまうかもしれないし、距離的に遠く離れた、信用できない代理店に行き着くかもしれない。

価格を評価する際には、機材の初期コストと、トータル・ライフサイクル・コストの関係を考慮しなくてはいけない。2交代制の下で、7年間使用に耐えるようなフォークリフトの購入を検討している場合、トータル・ライフサイクル・コスト面で、購入価格の1,000ドルの差の影響とは何だろうか？ 次回は10月8日(火)に掲載します



を維持する絶好の機会。そうしたお役に立てればと思っている」と抱負を語った。

物流に直接携わったのは入省時の貨物流通局政策課以来。「当時はトラックや取扱業の規制緩和が焦点となっており、免許を許可制にして競争原理を働かせる方向に物流行政が大きくカジをきった時期だった。以来、四半世紀。今度は日本の物流業が外国のマーケットに挑んで行こうという時期に再び物流に携わることになった」と振り返る。

閣議決定された総合物流施策大綱の今後の取組みの中でも、最初に、海外へのわが国物流システムの展開促進が掲げられているが「それが当課の柱だと思っており、14年度予算の概算要求ではアジア物流パイロット事業を盛り込んでいる。これはわが国の物流システムを海外展開する中で、官民が連携し、他国に遅れることなく日本の質の高いシステムをどんどん出していこうというもの。15年にはASEANの経済統合を控えており、現地で先駆的な実証実験を行い、効果を検証し、課題も抽出していく。効果や課題については相手国と政策対話もしていく」という。

日中韓の物流の円滑化については、これまで

大臣会合の枠組みの中で進んできた。「昨年10月から韓国と日本の間でシャーシの相互通行のパイロット事業も始まっており、ニールネットも共用開始され、パレットも3国間で標準化される。来年度は日本で大臣会合が開かれる」。シャーシの相互通行については「始まって間もないのでまず検証することが重要で韓国側も期待している」とみる。

これからの業務の進め方としては「できるだけ物流業界、産業界、外国政府の考え方をリアルタイムで把握することが重要だと思っっている。国際物流は様々な要因で変わりやすいというイメージ持っているので、できるだけ幅広い視野で、見通しを持ちながら仕事を進めていきたい」という。

小瀬達之国際物流課長は1963年6月28日に京都で生まれる。東大法学部を卒業、88年運輸省入省。「入省した当時『私をスキーに連れてって』という映画がヒットしたこともあって、一時はスキーによく行った。趣味はスキーと答えていたが、最近は危機管理系の業務が多く、なかなか東京離れられなかったたので、最近ではゲレンデにも出かけられていない」という。

amazon 限定で好評発売中

10冊以上の大口購入は発行元「(株)エル・スリー・ソリューション」のホームページから <http://www.l3-solution.com/>

